

赤ちゃんの発達とおもちゃ・絵本選び

☆ 子どもは遊びを通して学びます

身体やおもちゃを使ったり、草花や絵本に触れたりといった生活のすべてが子どもにとって遊びです。時には大人にとっていたずらに思える「主体的な遊び」の中で、子どもは人や物、自然界と何度も関わり、その性質を子どもなりに理解していきます。特にその中で持ち遊ぶものが「おもちゃ」です。

☆ どんなおもちゃがいいの？

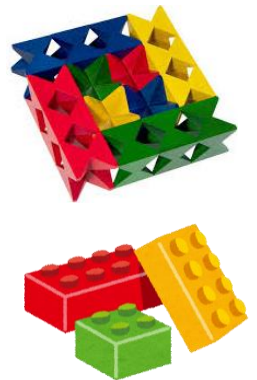
「手は第二の脳」といわれるように、手で遊ぶおもちゃの役割はとても重要です。既成のおもちゃを選ぶ時は、安全面や教育面から次のマークがあることが一つの目安になります。



また、親の愛情を込めた手作りおもちゃもいいですね。成長に合わせたアレンジができます。布や紙で作れば、壊れても作り直せ、その過程は物を大切にすることを教育になります。

☆ いろいろな素材の良さ

- <布> 手になじみ、加工・修理しやすい
- <木> 手になじみ、ボンド・やすりで修理可能
適度な重さがあるので自然と大切に扱う
- <プラスチック>
軽くてほこりがつきにくく、清潔を保ちやすい
値段が手ごろなものが多い（安物は注意）



☆ おもちゃは気持ちの切り替えを助けてくれます

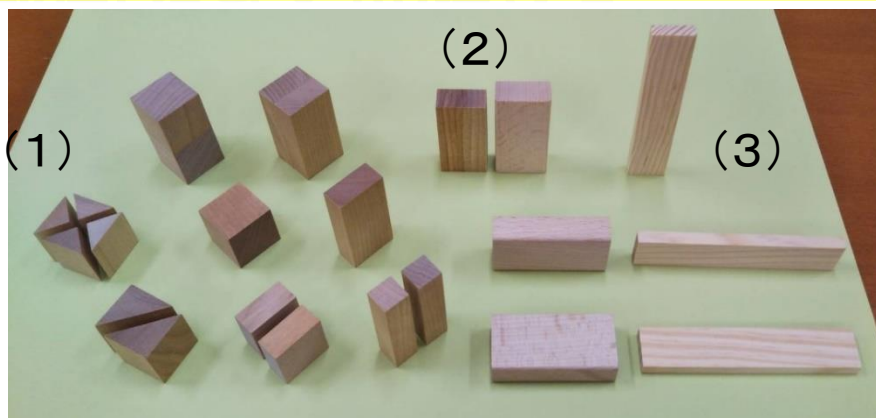
何が気に入らないのか泣いていても、おもちゃで気をそらすと「あれ？」と手に取ってピタッと落ち着くこともあります。

でも、食事の時間などは、自然な色の布でおもちゃをいったん視界から消しましょう。カラフルな色は良い刺激でもある反面、少々刺激的すぎるので、ナチュラルな色のものも選んであげるといいですね。



室内の砂場「積み木」の選び方

世界で初めて幼稚園を作ったフレーベル(ドイツ)が1838年に考えた積み木(1)が今も世界中で遊ばれています。一般には、レンガ積み木(2)と板積み木(3)との2タイプ



の積み木が流通しています。最初の積み木は、サイコロ型の積み木や、その2倍・半分の積み木がセットに入っているものがお勧めです(1)。遊びながら手指の発達や数・形・重さの自然な学びに繋がります。たくさんの積み木を購入するときは、積み木の「基尺(積み木のセットの基本の寸法。3cm、3.33cm、4cm等があります)」を揃えましょう。砂場同様に大きな物が造れるからです。さらに、異年齢間での協力関係も生まれ易くなります。同じ積み木に見えても、基尺が異なる物があるので要注意です(2)。

よい絵本の選び方・読み方

よい絵本とは 子どもの気持ちをとらえ、興味と想像力を引き出してくれる明確な絵や写真と、やさしく心にひびく文学性豊かな言葉がとけあって、芸術的な表現をしている絵本

0歳児の特徴

- ◆ストーリーは分からない
- ◆視覚や聴覚、触覚で楽しめる絵本にしっかり反応する

選ぶポイント

- ◆「顔」の写真や写実的な絵のもの
- ◆シンプルな絵やはっきりした色合い
- ◆擬音のリズムで楽しめるもの

1・2歳児の特徴

- ◆どんどん言葉を吸収し、少しずつ言葉を話し始める

選ぶポイント

- ◆シンプルで分かりやすいストーリー
- ◆繰り返しのストーリー

読み聞かせのポイント

- ◆子どもの興味・関心に合わせて絵本を選ぶ
- ◆素直に飾り気なく、心をこめて読む
- ◆お気に入り絵本はくり返し読む
- ◆子どもが絵本を持ってきたら、読み聞かせの時間をつくる
- ◆子どもの自主的な質問には、一緒になって考える
- ◆絵本の年齢制限はあくまでも目安
- ◆ママ・パパによって読み方が違って楽しさ2倍！

